



# 自ら掴む経営エッセンス！

(記事：いどばた稲毛) 渡部成夫 過去記事も読めます⇒<http://idoina.com>

1/15 (火)

テーマ：『お金と倫理～相場の格言から学ぶ倫理的資産運用』

出席26社26名  
(美浜21、他会5、非会員0)

講師：柏中央倫理法人会専任幹事 猫田 岳治 氏



Takeharu Nekota

「髭は、名前だけでなく顔にもインパクトが欲しかったから」と話す、楽しい猫田氏☆

## 座右の銘、そして倫理との出会い

道具を大切に扱う人は、道具で怪我をしない。物はこれを生かす人に集まる。中でもお金は、そうした性質を最も良く表し、ルール・使い方を誤れば大変なしっぺ返しをくらう。葉に度々登場するのも、お金がそれくらい大事なものだからだ。

猫田氏は、現在46歳。昭和59年に大学を卒業し、12年間証券会社に勤めた。バブルの右肩上りの時代を経験したが、ストレスもまた大きかったという。「儲けることが正義、そのためなら何をやっても良いという風潮があり、何か行動の指針が欲しかった」。そんな時、座右の銘と出会う。「粗にして野だが卑ではない」

戦前三井物産の社長を務め、78歳にして国鉄総裁となった人物が、国会答弁で言った言葉だ。猫田氏は以来、「これをやって卑しくはないか？」を行動の指針とすることで、厳しい証券マン時代を乗り切り、その後生保に転職する。仕事は順調だったが、1つ下の後輩から「独立したので、大阪に来て手伝って欲しい」と声がかかった。猫田氏は引き受け、単身赴任で大阪へ向った。

その会社は、社員5人、うち役員が猫田氏を含め3人という零細企業だった。それが、2002年4月ナスダックジャパンに上場し、ストックオプションも手にした。「頑張った甲斐があったなあ。俺もこれからだ」と思った矢先に、後輩である社長とぶつかった。当時は、相手を責める気持ちばかりで、自分が悪いなどとは全く思わず、年末に辞職、関東に戻り独立した。だが悔しさも未練も残り、精神的に辛い日々が続いていた。そして倫理と、今から5年前に出会った。

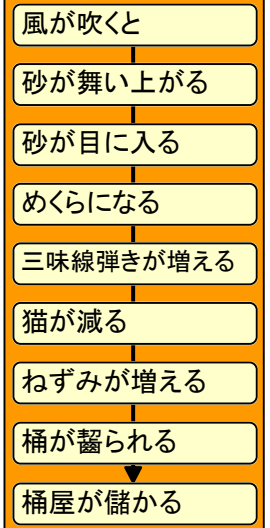
倫理にのめりこむにつれて、後輩を責める気持ちは薄れ、心は軽くなっていった。そして大好きな倫理への恩返しとして、講師に手を挙げ、「自分の経験上お話できることで、聴く人を眠らせない、ためになるお話をしよう」と思ったそうだ。

## 「風が吹けば桶屋が儲かる」に学ぶ、倫理的資産運用

倫理的資産運用を考える時、「大事なものは失敗しないこと。100を50にするのは50%のエネルギーだが、50を100に戻すには200%のエネルギーが必要になるからだ。失敗しないためには、発想のトレーニングが必要」と猫田氏はいう。

例えば、「風が吹けば桶屋が儲かる」的発想と、「当たりやにつくな、曲がりやに向かえ」的発想だ。これを、本業周りでトレーニングする。難しい勉強は要らない。同業で、儲かっている会社の良い点は何か、よく考えてみる。そして次のポイントを押えれば、「大儲けは約束できないが、多分失敗しない」と猫田氏はいう。

- ・投機(株を買う)でなく、投資(会社を買う)を。
- ・短期(儲かったらすぐ売る)でなく、長期で。
- ・集中(1つに全てつぎ込む)より、分散(財産三分法)で。



## 迷った時の道しるべ「珠玉の相場格言」!

- ◎人の行く 裏に道あり 花の山 何れを行くも 散らぬ間に行け  
→人と違うことをやらないと成功しない。チャンスを逃すなよ。
- ◎天底では、少数意見につけ / 総弱気は買い、総強気は売り  
→天井や大底では、少数意見につけ。
- ◎当たりやにつくな、曲がりやに向かえ  
→天才の真似をするより、いつも失敗している人と反対のことをやれ。
- ◎相場は常に正しい / 相場は相場に聞け  
→「相場」を「お客様」に置き換えて、上の格言を読むと・・・。
- ◎相場師の最大の敵は自分であって相手ではない

次回 第861回MS! 1/22 (火) 6時~7時+朝食会 ホテルニューオータニ幕張 (043-297-7777)

テーマ：『実践力』

講師：教育業務部研究員 津隈 亮二 氏

できるできるやればできる!  
明るく楽しくなければ倫理じゃない!  
・会員120社・MS30名以上・美浜を美しく